

～健康寿命の延伸と健康格差の縮小に向けて～

○ 地域の健康格差を見える化した取組

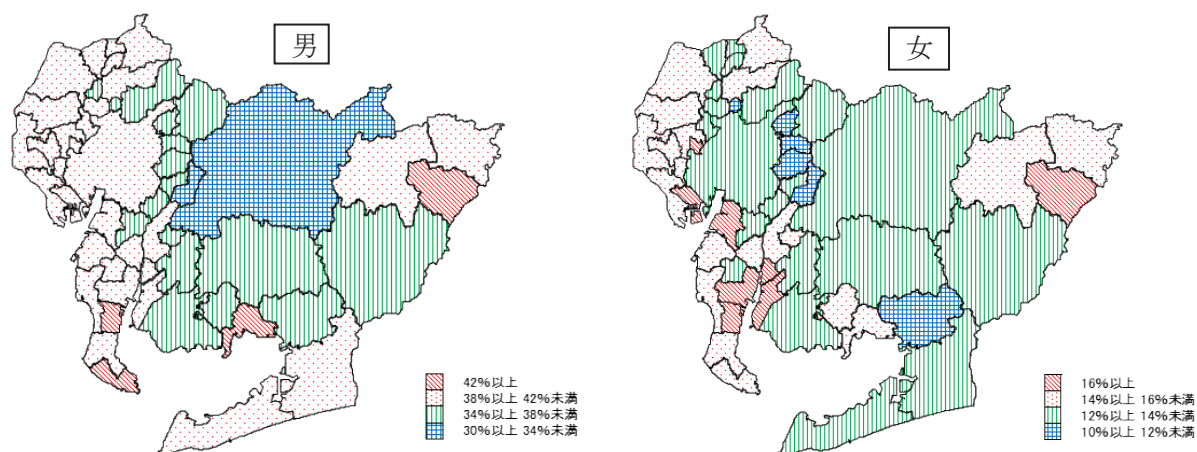
特定健康診査・特定保健指導の情報データを医療保険者の協力を得て、愛知県に集積（約 100 万件）し、その健診結果及び問診票データを活用し、受診者の住所別データに整理、分析することにより、地域の健康課題、健康格差を明確にするとともにその結果を可視化して活用しています。

分析結果は、健康日本 21 あいち新計画の進捗管理や健康づくり施策の評価及び保健事業の企画等での活用、地域・職域連携推進事業での情報・課題の共有に役立てています。

また、医療保険者でも、データヘルス計画や特定健康診査・特定保健指導実施計画等に還元した分析・評価結果が活用されています。

〔メタボリックシンドローム該当者及び予備群の状況〕

「特定健康診査・特定保健指導情報データを活用した分析・評価」（平成 26 年度分データ）



○ 県民へ生活習慣の見直しを呼びかける取組

行政や民間団体、大学など関係者と連携し、生活の身近な場所の「あいち健康情報ステーション」から「食」と「運動」を中心とした健康に役立つ情報を発信し、健康への関心を高め、健康づくりへのチャレンジを呼びかける「あいち健康チャレンジ」事業を平成 28 年度から開始しています。

あいち健康情報ステーションとは

スーパーやコンビニ、飲食店、社員食堂などに“あいち健康情報ステーション”を設置し、広域のかつ幅広い年齢層に対して健康情報を発信しています。

はじめよう！あいち健康チャレンジ

- 食生活:「食べて元気に もう 1 皿野菜を！」
愛知県は、全国有数の農業県にも関わらず、野菜の摂取量は全国的にみても少なくなっています。
→愛知県産の野菜や果物をもう 1 皿食べよう！
- 運動:「動いて元気に もう 10 分！」
高齢になっても、活動的・積極的な毎日を送るために毎日の運動習慣が重要です。
→毎日もう 10 分動こう(歩こう)！

